

スリランカの日本語教育の現状

Samanthika Lokugamage

International Center for Multidisciplinary Studies

University of Sri Jayewardenepura

背景

日本語教育年表

年	出来事
1967年	コロombo市内の私塾で日本語教育が開始される
1975年	日本大使館日本語普及講座として受け継がれる
1978年	ケラニヤ大学で日本語の課外コース開講
1979年	G. C. E. (A/L) 試験の1科目として学校教育の中に日本語を導入
1980年	ケラニヤ大学で日本語の学位取得コース開講
1994年	大使館日本語講座が民営化（スリランカ日本語教育協会附属日本語講座）
1996年	サバラガムワ大学で日本語の学位取得コース開講
2001年	G. C. E. (O/L) 試験の選択科目に日本語を採用
2013年	ラジャラタ大学で日本語講座開講 ペラデニア大学にスリランカ日本研究センターを設立
2016年	ケラニヤ大学に日本学研究センターを設立
2022年	スリジャヤワルダナプラ大学で日本語の学位取得コース開講

表 1

日本語教育の現状

南アジア諸国との比較

国・地域	2021年度								人口 (人)	2018年度		
	機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)	10万人あたりの学習者 (人)	教育段階の構成 (学習者) (人)					機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)
					初等教育	中等教育	高等教育	学校教育以外				
インド	323	1,132	36,015	3.0	2,296	4,439	8,525	20,755	1,210,854,977	304	1,006	38,100
スリランカ	89	164	9,746	47.9	0	6,412	833	2,501	20,359,439	77	125	8,454
ネパール	241	812	9,646	36.4	0	150	215	9,281	26,494,504	126	443	5,326
バングラデシュ	116	346	7,418	5.1	266	112	925	6,115	144,043,697	85	220	4,801
パキスタン	5	13	243	0.1	0	0	90	153	207,774,520	8	16	587
ブータン	1	3	18	2.5	0	0	0	18	727,145	2	8	48
モルディブ	1	1	7	1.7	0	0	7	0	402,071	2	2	40
南アジア全体	776	2,471	63,093	-	2,562	11,113	10,595	38,823	-	604	1,820	57,356

※人口は国際連合発表のPopulation and Vital Statistics Report (as of 3 June 2022) より引用

表 2 『2022 年海外日本語教育機関調査』

2023 (2024) 年の G. C. E. (A/L) 試験の受験者と成績状況

Figure 14: G.C.E.(A.L.) Examination - 2023(2024)

All Candidates - Results by Grades in Each Subject

Subject No.	Subject	No. Sat	A		B		C		S		(A+B+C+S)		F	
			No.	%	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%
71	Sinhala	51,892	7,769	14.97	11,044	21.28	15,169	29.23	11,659	22.47	45,641	87.95	6,251	12.05
72	Tamil	18,097	1,602	8.85	3,310	18.29	6,143	33.94	4,747	26.23	15,802	87.32	2,295	12.68
73	English	1,499	3	0.20	37	2.47	287	19.15	610	40.69	937	62.51	562	37.49
74	Pali	1,130	128	11.33	165	14.60	318	28.14	363	32.12	974	86.19	156	13.81
75	Sanskrit	586	48	8.19	82	13.99	165	28.16	206	35.15	501	85.49	85	14.51
78	Arabic	1,798	453	25.19	394	21.91	533	29.64	317	17.63	1,697	94.38	101	5.62
79	Malay	4	3	75	0	0	0	0	0	0.00	3	75	1	25.00
81	French	933	103	11.04	118	12.65	211	22.62	228	24.44	660	70.74	273	29.26
82	German	289	35	12.11	28	9.69	70	24.22	73	25.26	206	71.28	83	28.72
83	Russian	43	2	4.65	4	9.30	17	39.53	11	25.58	34	79.07	9	20.93
84	Hindi	314	17	5.41	29	9.24	90	28.66	119	37.90	255	81.21	59	18.79
86	Chinese	366	80	21.86	58	15.85	102	27.87	68	18.58	308	84.15	58	15.85
87	Japanese	2,285	162	7.09	217	9.50	399	17.46	716	31.33	1,494	65.38	791	34.62
88	Korean	434	93	21.43	56	12.90	81	18.66	77	17.74	307	70.74	127	29.26

表 5

Sri Lanka to introduce Japanese language to school curriculum from primary grades

June 22, 2023 12:34 pm

 Like 415K people like this. [Sign Up](#) to see what your friends like.

Minister of Labour and Foreign Employment Manusha Nanayakkara says that special approval has been received to include the Japanese language into the school curriculum from the primary grades.

Speaking in the parliament today (22), Nanayakkara mentioned that this decision has been taken targeting the future Japanese job market.

Accordingly, necessary arrangements are already being prepared together with the Ministry of Education, in order to begin the process of teaching the Japanese language to school children, the minister emphasized.

The minister further asserted that a program has been launched to create a pool of 5,000 Japanese language trainees targeting the Japanese job market.

日本語能力試験の受験者

Level	Female	Male	Total
N1	37 (86%)	6 (14%)	43
N2	121 (80%)	30 (20%)	151
N3	418 (85%)	76 (15%)	494
N4	2966 (52%)	2695 (48%)	5661
N5	3356 (50%)	3403 (50%)	6759
Total	6898 (53%)	6210 (47%)	13108

Figure 3: JLPT 2023 July

Source: (JLPT Registration Portal, 2023)

表 7

Level	Female	Male	Total
N1	38 (81%)	9 (19%)	47
N2	154(86%)	25(14%)	179
N3	382(77%)	116 (23%)	498
N4	2295 (55%)	1913 (45%)	4207
N5	2826 (57%)	2171(43%)	4997
Total	5695 (57%)	4233 (43%)	9928

Figure 4: JLPT 2023 December

Source: (JLPT Registration Portal, 2023)

表 8

学習目的

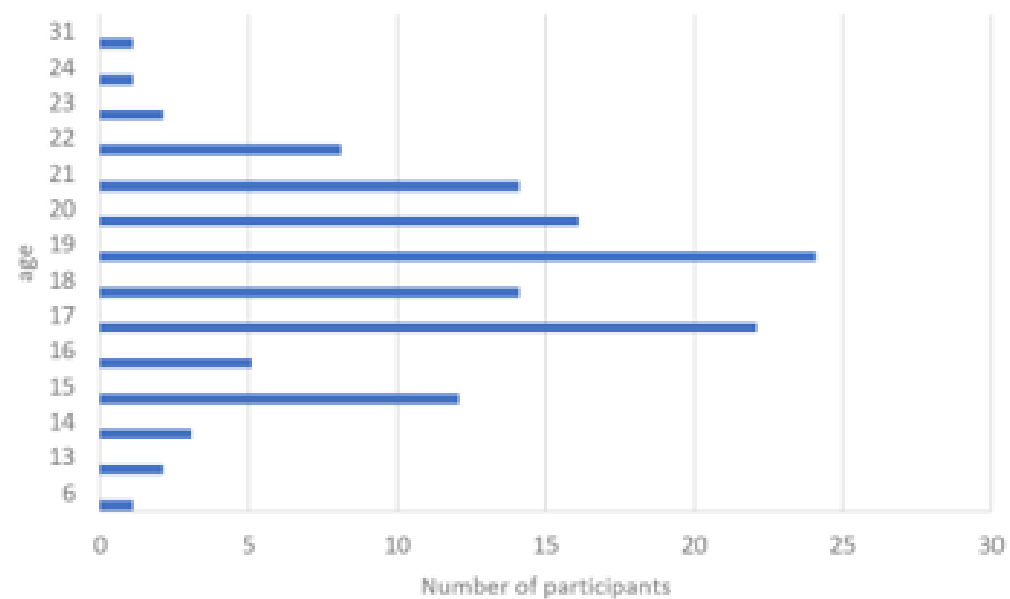


図 1

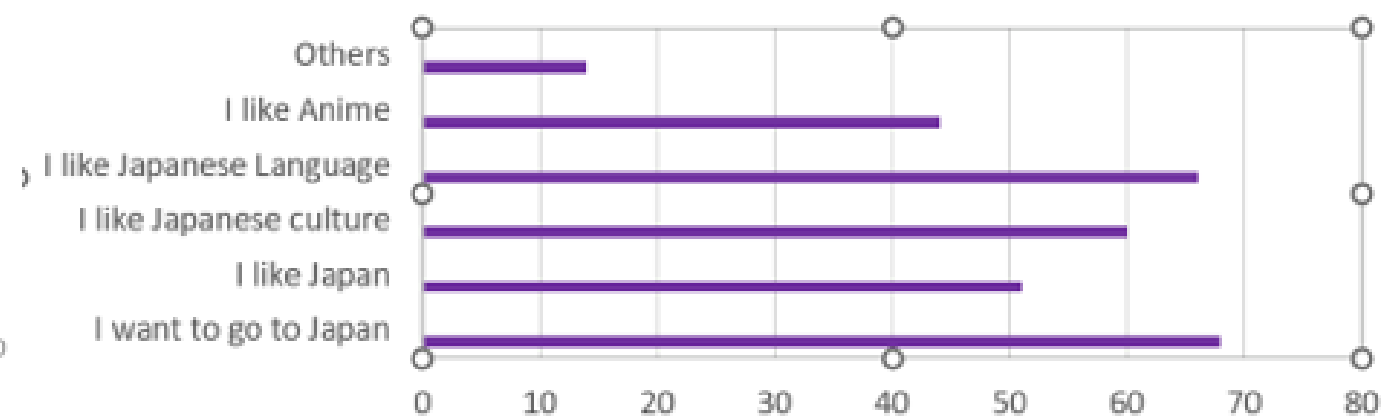
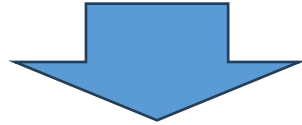


図 2

専門家向けの日本語

スリランカの日本語教育の課題

- 中等教育における日本語学習の目的がはっきりしないこと
- 専門家向けの日本語に注目すること



将来、日本企業で ITエンジニアとして働くという明確な
目的をもって 日本語を学ぶ学生のための教育機関：
LNBTI (Lanka Nippon Biztech Institute)



Japanese IT University



LNBTI (Lanka Nippon Biztech Institute)

- スリランカにおいて 高学歴の人材として日本企業に就職するため日本語を学習する者の増加
- そのニーズをいち早くスリランカ現地で形にした教育機関で、南アジア初の日系大学
- 2016年、首都コロンボから南東に15kmほど離れたマハラガマに設立



LNBTIの学生の明確なビジョン

- ・情報工学の知識とスキルの習得
- ・ビジネスで通用する日本語の習得



ITエンジニアとして
日本企業への就職

大学側

- ・ ITと日本語という2つの専門分野に特化
- ・ 卒業後、日本企業へ就職できるよう工夫を盛り込んだカリキュラムを提供





本人の努力なしには順調には進まないことから発生する様々な課題

1. 学業遅れの発生

- 必ずしも理数系が得意で、ITスキルに長けた学生だけではない
- 入学者の8割以上が、これまで全く日本語を学んだことのない学生

IT授業は 日本の大学の専門課程相当のレベルで 授業進捗のフォローや課題への対応などに時間がかかる

→ 日本語の学習にしわ寄せ → 授業への出席率の低下・落ちこぼれ

補習クラスや学習サポートプログラムを導入する対策の実行

2. 両国の文化・習慣の違いから起こる問題

- 遅刻（開始時間から10分ほどでようやく集まり開始できるという実態）
時間管理が厳しく、遅刻を悪徳ととらえる日本の会社では通用しない
- その他種々のビジネスマナーやルールの教育
- 現地では問題ないが日本ではなじまない行動規範(服装、刺青、ひげ、暴力、携帯やSNSの使い方等)への細かい指導

ただしこの分野での改善教育をできることこそがLNBTIの強み

3. クラスが多いことによる、時間割設定や授業運営の複雑化

スリランカは大学入試に相当するO/Level, A/Levelの実施時期が入学のタイミングを決める

→ 年複数回の入学時期あり

→ 入学時期の違いはそのままクラスの数になる（現在は16クラス）

→ クラス数の増加に伴い教室や講師の増員が必要

クラス分けする際のレベル

	LNBTI	Challenge
Beginner	Level I	JLPT N5
	Level II	
Intermediate	Level III	JLPT N4
	Level IV	
	Level V	JLPT N3
	Level VI	
	Level VII	
Advanced	Level VIII	JLPT N2
	Level IX	
	Level X	

日本語講師陣



Toshiyuki Sadoi



Nelushi Perera



Manjula Wanninayaka (PhD)



Anju Chathurangani



Naoko Koizumi



Dinushi Wanasinghe



Maleesha Peiris



Pragathi Peiris

日本語学習から落ちこぼれ問題への対策

- 各学期の最初に数週間の「日本語キャンプ」実施
- 昨年は、9月～10月にかけて2週間実施
- その間はITの授業は一切なしとしてITからのプレッシャーをなくし、朝9時から夕方5時まで日本語の授業のみで日本語づけにする
- JLPT-N5、N4、N3の各資格挑戦レベルでクラス分け
- N3/N2合格者は、Teaching Assistantとして各クラスで講師をサポート
- 語学授業のみならず、日本語を使ったゲーム、ワークショップ、ロールプレイ、日本の大学との合同クラス、書道や折り紙、ポスター作り、映画鑑賞等を実行



2025/6/14

Copyright: LNDH



LNBTIでは、その日常に起こる様々な事象の一端を本学会で紹介することで「海外における日本語教育事情」の難しさと、さらにそれを克服する充実感をシェアしたい

日本語スキルアップのため、種々のトレーニング方法を検討・採用・実施中であるが、特に日本での就職・生活のために最も必要な会話スキル向上を図るプログラムとして「**OPIc**」の導入を検討中。

OPIc (Oral Proficiency Interview computer)

LNBTIではOPIcの活用による以下のメリットを確認すべくトライアルを実施中。

昨年は、JLPT-N3合格レベルの学生を対象に実施、今年も7月に受験者を増やして実施の予定。

1. 学習品質の向上：AIやICTのツールの利用で学習範囲を広げ、習得方法を効率化
2. オンラインによる海外学習者へのOPIc適用の意義：面接会場を模したセットで実践に慣れる
3. JLPTレベルとOPIc評価の関連を検証：一般知識の向上と会話力の向上の相関関係調査
4. テキストにない日常会話の指導要否考察：指導すべき実用会話の範囲の明確化

OPIcを実施して

- 学生らが会話能力の重要性を改めて認識し、会話への学習意欲を高めることの確認
- 講師陣がテキストにない実践的会話能力をどの程度指導すべきか理解することの確認

この2つに効果があることが確認できれば、OPIcをLNBTIにて正式採用したいと考える